

5. 令和5年度 珠洲市立大谷小中学校 前期（I期）学力向上プラン

年間のゴールの姿

ガチャガチャわいわいすることを通して、**すとーん**と理解できる児童生徒

1 授業づくり

(1) 現状と課題 (R)

児童生徒の課題	現状と要因・根拠となるデータ
問われたことに対して、過不足なく・適切に表現できず、曖昧な表現のまま解答している。 すとーんと理解できていない。	[現状と要因] ○考え・根拠・理由の三角ロジックで書くことが定着した。 ○考えを書いた上で、発表し合うことができています。 △曖昧な表現のまま解答している。 →考えが過不足ないか・適切かを検討し合うことが足りない。 [根拠となるデータ] ・ R4 後期：ノート全員参観 (75.5%) ○ - 研究授業参観者評価 (41.7%) △ チャレンジテスト (52.3%) △ ・ R4 12月 県評価問題 5年(2名) 国語110%、算数5(2)0% 8年(2名) 国語110%、数学4(3)0%

(2) 計画と実行 (P・D)

	具体的取組	評価項目	評価
ガチャガチャ、わいわい	児童生徒の発話量を多くする。 (一往復半) ※各教員の持ち味と心意気で取り組む。今まで、手立てにこだわってきたが、結果にこだわる。	児童生徒アンケート 「言いたいことを全部言えているか」 70% 「授業が楽しい」 80% 教員アンケート 「楽しんで授業をしている」 100% 「一往復半で授業をしている」 100%	
すとーん！	適切に表現させる。 (不足があったり、間違えたりした解答にこそ宝がある) ※各教員の持ち味と心意気で導く。今まで、手立てにこだわってきたが、結果にこだわる。	・ チャレンジテスト 65% (過不足なく適切に表現できているかをみる問題) ・ 研究授業参観者評価 65%	

(3) 検証と改善 (C・A)

月	評価項目 (誰が、いつ)	結果	取組の成果○・課題▲
4	児童生徒アンケート (高堂教諭、月末) 教員アンケート (高堂教諭、月末)	31.8% 44.4%	○理由を問い返したり、他の児童生徒に言い直したりして、つなげることを意識することで、発話量が増えてきた。(→継続) ▲話し合いの中で解決を目指す姿が見られるため、自分の考えをあまり持とうとしない。(→再度、共通理解して取り組む)
5	児童生徒アンケート (高堂教諭、月末) 教員アンケート (高堂教諭、月末) チャレンジテスト (宮原教諭、毎週金曜) 宮原教諭 研究授業 (11日)	20%	○ねらいが明確で、対話を通して定着に向かっていく姿が見られた。 ▲教師主導をもっと減らす。過不足を確認する手立てを継続する。
6	児童生徒アンケート (高堂教諭、月末) 教員アンケート (高堂教諭、月末) チャレンジテスト (宮原教諭、毎週金曜) 高堂教諭 研究授業 (A 訪問)		
7	児童生徒アンケート (高堂教諭、月末) 教員アンケート (高堂教諭、月末) チャレンジテスト (宮原教諭、毎週金曜) 井関教諭 研究授業 (4日)		

前期（I期）取組の成果○・課題▲

2 基盤づくり

目標	具体的取組	評価
安心して話ができる雰囲気を作る。	・ 児童生徒が考え、行動し、修正していく集会の場を教師が保障する。 ・ 伝えたい内容に応じて、教師は表情や話し方をコントロールする力をつける。	

年間のゴールの姿

1 授業づくり

(1) 現状と課題（**R**）

児童生徒の課題	現状と要因・根拠となるデータ
	[現状と要因]
	[根拠となるデータ]

(2) 計画と実行（**P・D**）

具体的取組	評価項目	評価

(3) 検証と改善（**C・A**）

月	評価項目（誰が、いつ）	結果	取組の成果○・課題▲
9			
10			
11			
12			



中期（Ⅱ期）取組の成果○・課題▲



2 基盤づくり

目標	具体的取組	評価
	・ ・ ・	

令和5年度 ○○立○○小（中）学校 後期（Ⅲ期）学力向上プラン （案）

年間のゴールの姿

1 授業づくり

(1) 現状と課題（**R**）

児童生徒の課題	現状と要因・根拠となるデータ
	[現状と要因] [根拠となるデータ]

(2) 計画と実行（**P・D**）

具体的取組	評価項目	評価

(3) 検証と改善（**C・A**）

月	評価項目（誰が、いつ）	結果	取組の成果○・課題▲
1			
2			
3			



後期（Ⅲ期）取組の成果○・課題▲

